

## 令和3年度 奈良市立大安寺幼稚園 研究実践概要

園長名 阿部 靖子  
全園児数 24名

1. 研究主題 「豊かな心、たくましく生きる子どもの育成を目指して」  
— “やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみたい” 子どもの思いを大切に—
2. 研究年度 2年度

### 3. 研究主題設定理由

本園は奈良市の中心部に位置し、近くには大型の商業施設や寺院などが多数ある。近年は近隣の子ども園の設置や子どもの減少・保護者のニーズの変化等により、本園の在園数は減少してきている。また、個人的に配慮を要する子どもが年々増加している姿があり、個々の育ちにあったかかわりや援助、環境構成を工夫していく必要がある。

昨年度の反省から子ども達が自ら考え、試し、遊びを進めていけるような環境構成や援助のあり方について、まだまだ課題が多かった。子どもの“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみたい” が実現できるように環境構成、援助など職員全体で話し合い、実践していくことが重要であると考えこの主題を設定した。

### 4. 具体的な研究内容

#### ①研究のねらい

「幼児の姿と成長の過程」「したい気持ちや力を存分に発揮できるような環境」「主体的な活動を促す保育者のかかわり」について探ることで、保育者の資質向上を図り、豊かな心とたくましさのある子どもを育む。

#### ②研究の重点

- ・昨年度の成果と課題を踏まえ、今年度の取り組みについて共通理解を図る。
- ・幼児一人一人の姿や内面（育ち）理解、主体的に活動するための環境や保育者の援助及び指導のあり方について研修を進め、計画的かつ継続的に実践する。
- ・なかまとともに生活する中で、自分の思いを表現することや相手の気持ちを思いやる心を育み、共に解決していくことのできるなかま作りをする。
- ・豊かに活動する幼児を育成するための保育内容を工夫する。

#### ③活動の方法

保育者の援助

環境構成

保育者の意図

#### I. 4歳児 5月 『いらっしやいませ〜♪』

ねらい ○アイス屋さんで友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる。

○簡単な言葉のやりとりを保育者や友達と楽しむ。

5歳児のお店屋さんに興味を持ち、お客さんになって「ピザください」「アイスください」と一緒に遊んでいる。クラスの友達と遊べるきっかけになるようにお店屋さんを提案した。作り方を知らせると、友達と楽しく作ったり、並べたりして「いらっしやいませ〜」「アイスください！」と遊んでいる。

「いらっしやいませー」「いらっしやいませー」とあちこちから声が聞こえる。A児は「イチゴとバナナですね」と話し「B君何がいい？」とアイスを用意している。「先生買いに来て！」とC児が言う。「3つやからカップでいい？」と話しアイスを入れる。「あっ！園長先生にも配達してみる？」と声をかけると「行く行く！」と嬉しそうにアイスを用意し「園長先生、アイス持ってきました」と職員室へ入っていく。「おいしい？」「次は何がいい？」と園長とのやりとりを楽しんでいる。

「イチゴとバナナください」と注文し、「おいしい！」と驚きながら話す。「B君何がいい？」と遊びに誘い入れる。

C児の思いを受け止め「オレンジとチョコとバナナください」とお客さんになりやりとりを楽しめるようにする。

いろいろなやりとりを楽しめるように保育者も一緒に遊んだり、提案したりすることでやりとりの楽しさを知り、アイスを配達することで遊びが広がってほしい。

#### 〈考察〉

お店屋さんごっこをする中で、「いらっしやいませ」「何がいいですか？」などお店屋さんになりきって遊んだり、保育者も一緒に遊ぶ中で簡単な言葉のやりとりを楽しんだりしていた。毎日、繰り返し遊ぶ中で園長先生や5歳児の友達に配達をしたり、同じ場で同じ遊びをしたりすることを楽しみ、遊びや友達に興味を持つきっかけとなった。友達とのやりとりも活発になり、お店屋さんごっこは子ども達が好きな遊びになった。1学期以降も継続して遊ぶことができた。

## II. 5歳児 7月『開店！リニューアル流しそうめん』

- ねらい ○友達と思いや意見を出し合いながら、遊びを進めていこうとする。  
○イメージを共有しながら、流しそうめんごっこを楽しむ。

砂場のトイを使って水や砂、泥を流しコースを作って遊んでいた。その後クローバーも流して遊んでいると「そうめん流しをしよう」という声ので、トイに水を流し、クローバーを流しそうめんに見立てて遊び始めた。「お箸とお椀もいるなあ」と用意し遊びを楽しむ姿があった。

数日後、A児が「ねえ、ねえそうめんてさあ〜もつと細くない？」と言う。それを聞いて、B児「クローバーみたいな形ちがうよなあ」「もうちょっと細いかなあ〜」と言う。なんかないかなあ〜と3人で園庭を探し始めた。そしてC児「これそうめんぽくない？」と長い草を見つけてきた。A児、B児「それいいよな〜そうめんみたいに細いしね」「でも長すぎへん？流しにくいなあ」短く切ろうということになり手でちぎってみたが切れず、「先生、ハサミ使っていい？」と言いに来た。「はいどうぞ」と濡れないように牛乳パックに立てて手渡した。草を切って本物のそうめんの様になると、それを見てD児が「つゆを作ろう」と用意した。「本物の流しそうめんみたいやん」と新しくなったそうめん流しを見て、F児、E児が言った。

「ちょっと、本物とは違う」と思った気づきを大切にし、子どもの思いに共感しながら見守っていく。

トイやビールケースなど遊びが広がる様に用意しておく。子どもたちの要望を満たしていけるように、一緒に考えながら環境を整えていく。

子どものアイデア、意見を受けとめ、周りの友達に知らせ、思いを繋いでいけるようにする。

#### 〈考察〉

トイを使った夏の遊びを繰り返し楽しむ中で、流しそうめんという新しい遊びに変化していった。遊んでいる中で、『より本物に近づきたい』という思いが芽生えた。子ども達の楽しさを一緒に共有し気づきを大切にしながら、『こうしたい』という思いを一緒に考え実現させていったこと、園庭の環境をタイミングよく取り入れられたことで、本物に近づき遊びがより楽しいものになっていったと考えられる。

### Ⅲ. 4歳児 9月後半から10月 『バッタいっぱいみつけた♪』

ねらい ○友達や保育者と一緒にバッタ捕りを楽しむ。

○考えたことや思ったことなど、自分の言葉で伝えようとする。

9月後半から園庭に、虫がたくさん遊びに来ていた。子ども達は、虫網や虫かごを持ってトンボを追いかけたりバッタを探したりして遊ぶことを楽しんでいる。「虫捕りしよう！」とA児が声をかけると、「する！」「僕も」「私も」と集まり「先生も一緒にしよう」とB児。みんなで虫捕りが始まった。

「あっ！バッタみつけ！」と嬉しそうにC児が言うと、「どこどこ？」と探し、「ほんまや！」「うわー！めっちゃいっぱいいるな」と周りの友達も見つけて喜んでいる。「あっ！また、いた」「つかまえた！」と嬉しそうに虫かごに入れている。

「僕もほしい」「バッタどこにいるの？」とC児もD児も残念そうにしていると、友達が「揺れてる草のところを見るねん」「ピョンとしたらサッと捕まえる」「草がいっぱいのところをよーく探すねん」と見つけたことや考えを話す。C児とD児は「草がいっぱいのところ」と教えてもらったことを思い出しながら、探していると、「あっ！いた」と嬉しそうに言い「サッと捕まえる」と声に出し、「あっ！逃げられた」「もう1回」とバッタを探している。夢中になって、バッタを探し捕まえる子ども達。「明日もバッタ捕りする」「もっといっぱい捕まえる！」と楽しんでいる。

虫かごや虫網を、すぐに使えるように目のつく場所に置いておく。

「ほんとだね。いっぱいピョンピョン飛んでいるね」と幼児の思いに共感したり、バッタ捕りを楽しみ見つけて喜んでいる姿を見守り一緒に楽しんだりする。

「そうだよ。捕まえないね」と残念な気持ちに寄り添いながら、「友達に聞いてみよう」と声をかける。

自分の思いや考えを言葉で伝えられるようになってほしい。また、どんな考えが出るか楽しみに見守る。

自分の言葉で伝えている姿を見守り、「なるほど。いっぱい教えてもらったね」と共感しながら一緒に探してみよう」と声をかける。

#### 〈考察〉

バッタ探しをして遊ぶことで、身近な生き物に触れて遊ぶ機会を持つことができた。初めは、怖がっていた幼児も友達が見つけて嬉しそうにしている姿を見て、「僕もやってみよう」という思いが出てきて“やってみよう！”と挑戦して遊ぶ姿があった。友達に自分の言葉で考えや思いを伝えたり、教えたりして遊ぶ姿も見られるようになってきた。保育者も一緒に遊ぶ中で、幼児の思いを受け止め、喜びや残念な気持ちに共感しながら、遊びを見守ってきたことで毎日思いきり楽しむことができた。10月以降も遊びが続き、バッタ捕りを楽しむ姿があった。保育者はあまり声を出さずに、幼児の思いに寄り添い見守ることで、幼児が満足するまで遊びが続いたのではないかと考える。

### Ⅳ. 5歳児 12月 『もっと こわ〜くしたい 』

ねらい ○友達と共通の目的をもち、話し合い、協力しながら遊びを進めていく。

○感じたことや考えたことを伝え合い、意欲的に活動に取り組む。

11月半ばより、作品展に向けてどんなことをしてお客さんを招待しようかと子どもたちに投げかけ話し合いをした。子どもたちから「お化け屋敷をしたい」と意見が出たので、どんなお化け屋敷をつくりたいのか、そのためには何が必要なのかを話し合い、進めてきた。お化け屋敷が完成し、一度やってみようということになりお化け役とお客さん側に分かれてやってみた。終了後、やってみてどうだったかを子どもたちと話し合った。

C児が「はい！先生」と手を挙げ「俺は、お化け役やったけど、入ってきた友達全然怖がってなかった。あんまり楽しそうじゃなかった。

皆で振り返る時間と場所を設定する。

だから、もっと怖いお化け屋敷にしたい」と話す。それを聞いた子も「もっと怖くて面白いお化け屋敷にしたい。」「みんなが楽しんでくれるのにしたい」という。そこで、怖くて面白いお化け屋敷にするには、どうしたらいいか考えてみた。「もっとおばけ作ったらいいいんとちゃう?」「もうちょっと暗いほうがいい」「たたいて音出したらいいいんちゃう?」「中が見えないようにしたらいい」等色々な意見が出てきた。

「よーし!! もう一度怖くて面白いお化け屋敷にしよう」とみんなで作り直してみることにした。

考えたアイデアをみんなで認め合い、思いが実現していけるようにボードにすることを書き留めて皆で共有できるようにする。

「怖くて面白いお化け屋敷にするにはどうしたらいいと思う?」とよりイメージが広がり、思いが出しやすい様に声をかける。

皆で経験を振り返り、感じたことや思ったことを話し合うことで気持ちが1つになっていって欲しい。もっと楽しく怖いお化け屋敷にしたいという気持ちが高まっていって欲しい。

#### <考察>

自分達の行動や思いをみんなで振り返ってみたことで、「怖いお化け屋敷にしたい」という思いが強くなり、色々なアイデアと、実現していく方法を子どもたち自ら考え出すことができた。思いを出し合うことで、みんなの気持ちが1つになり、「やろう」という気持ちの高まりにも繋がったと考える。

## 5. 研究の成果

- 子ども達が遊びの中で“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみよう”と夢中になって遊べるようになるにはどのようにしていくのが良いのか保育者同士で話し合ってきた。保育後に子どもの様子や遊びの内容などの振り返りができるような時間を持つようにしたり、園庭図を作り月の初めと終わりに話し合う時間をつくり遊びの様子や準備するものなどを記入したり見てわかるようになってきたことで、全体での遊びの様子を知ることができた。また、自分の保育を振り返り反省することで次の遊びにつながっていった。
  - 4歳児は、保育者や友達と一緒に遊ぶ中で遊びの楽しさを感じながら、自分の思いや考えを出し遊ぶ姿が見られた。また、楽しいから“やってみよう”と挑戦し「明日もやる」「また、やりたい」という気持ちがみられ、活発に遊ぶことができた。
  - 5歳児は、もっと遊びが楽しくなる様にみんなで話し合う時間や一人一人の思いをみんなの思いにしていくことで、仲間同士のつながりが深まった。“もっとこんな風にした” “もっとやってみよう”と日々の遊びの中で、友達と話し合いながら自分達で遊びをすすめていけるようになってきている。
- 保育者は、子どもの思いを丁寧に受け止め、共感し保育者も一緒に思いきり遊び楽しさを共有することを大切に保育をしてきたことで、子ども一人一人が“やってみよう” “たのしいな” “もっと遊びたい”という思いになるのではないかと改めて感じた。

## 6. 今後の課題

- 子どもの姿や遊びの様子などが共有できるように、園庭図、振り返りを続け、環境構成の見直しや工夫、援助、かかわり方などを考えていくことが必要である。
- 今後も、“やってみよう” “たのしいな” “もっとやってみよう”と子ども達が思えるように興味が持てる遊びや活動の工夫をしていくことを心がけ保育に努めていきたい。
- ドキュメントや記録を利用し子どもの姿や活動の進め方について保護者に理解を深めていくようにしたい。